



中国本土との隔離なしの往来開始

1. 中国本土との隔離なしの往来開始

香港政府は2023年1月8日より、中国本土との隔離措置なしの往来を7か所の境界で再開すると発表しました。中国中央政府が1月8日から入境者に対する強制隔離措置を廃止することに伴い実現するものです。1日の往来の人数の割り当ては、香港から本土へは6万人、本土から香港へは5万人として段階的に割り当て人数を増やす計画です。往来希望者は香港政府のオンライン予約システム (https://www.quotabooking.gov.hk/cbt_depart_form/index_hk.jsp)からの申請が必要です。

香港から本土への6万人については、落馬洲35,000人、深圳湾10,000人、文錦渡5,000人の3か所が申請必要で割り当てられ、その他10,000人は空港、港珠澳大橋、フェリー（上環の港澳客輪碼頭と尖沙咀の中国客運碼頭）の利用者に状況に応じて申請不要で割り当てられます。

2. 高速鉄道が運行再開

香港の西九龍駅と中国広東省の深圳、広州を結ぶ高速鉄道「広深港高鉄」が2023年1月15日、3年ぶりに運行を再開します。また再開に伴い、新たに西九龍—広州東の運行が始まります。途中停車駅は福田、深圳北、東莞南、東莞で、所要時間は1時間40分前後となります。香港・広州間の高速鉄道については、コロナ前は、広州の市中心部から約25キロ、車や地下鉄で30分以上離れた広州南駅にしかアクセスがありませんでしたが、今回新たに接続する広州東駅は市中心部でビジネス街の天河区にあるため、利用者の利便性は大幅に改善すると期待されます。

高速鉄道を使った出入境は、上記1.の1日6万人の制限とは別枠になり、政府への事前予約が不要です。ただし、乗車券の販売は当面、1日当たり香港から広東省を5,000枚、広東省から香港を5,000枚の計1万枚に制限されるようです。

3. コロナ陽性者の隔離が不要に

香港政府トップの李家超行政長官は2023年1月19日、新型コロナウイルス感染者に出していた「隔離命令」を1月30日に廃止すると発表しました。現状では陽性となった市民は、政府衛生署衛生防護センター（CHP）にその旨を報告する必要があり、報告後に政府から最短5日間の隔離命令が出されていましたが、30日以降は当局に陽性申告を行う必要がなくなり、隔離を命じられることもなくなるため、陽性期間中の外出や出勤も可能になります。

これにより、各企業は陽性となった従業員の出勤可否を独自で判断することになります。従業員側が出勤を望む場合、仮に企業側がそれを認めたくないとしても、その主張の裏付けとなる政府ガイドラインがなくなることになるため、出勤停止を命じる場合には相応の準備をする必要があります。

フェアコンサルティング グループ

FCG 中華圏 ニュースレター

北京・蘇州・上海・成都・広州・深圳・台湾・香港



FAIR CONSULTING
GROUP

フェアコンサルティング香港

(Fair Consulting Hong Kong Co., Limited)

香港九龍海港城海洋中心 16 樓 1629A-30 室

電話：+852-2156-9698

担当：山口 (YAMAGUCHI) 日本国公認会計士

ka.yamaguchi@faircongrp.com

「FCG 中華圏 ニュースレター」本文の内容の無断での転載、再配信、掲示板の掲載等はお断りいたします。

「FCG 中華圏 ニュースレター」で提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご使用ください。

フェアコンサルティンググループでは、できる限り正確な情報の提供を心掛けておりますが、「FCG 中華圏 ニュースレター」で提供した内容に関連して、ご利用される方が不利益等を被る事態が生じたとしても、フェアコンサルティンググループ及び執筆者は一切の責任を負いかねますので、ご了承ください。